

Fグループ研究報告書 サマリー

地銀を無視して地方創生あらず

1. 解決すべき課題

- (1) 地方銀行が期待される機能を十分に果たしていない
 (2) 地域の成長源となるヒト・モノ・カネ・情報が循環していない

2. 問題意識

- (1) 「地域の成長資金を担う地銀」と「地銀の第一の顧客である地域」の共存関係が、地域と地銀を巡る議論から欠落している。
 ① 従来の地方における成長戦略は、誰がお金を負担するのか、誰が長期的なリスクを負うのかに関する議論が不十分。
 ② 地銀存続のための従来の政策は、地銀が抱える現状を過度に楽観視している
 (2) 地銀と地域は負のスパイラルに陥っている。
 人口減少→地域産業衰退→顧客数(貸出)減少→収益力低下→固定費不足→金融機関としての魅力低下→顧客数減少→地域産業の活動鈍化
 (3) 地銀というフィルターを通して地方創生を見ると活路が開けるのではないか。
 しかし現在の銀行が保有するリソースには限界がある。
 【原因】① 地域の人々と銀行員の対面コミュニケーション減少(働き方改革の影響)
 ② 銀行員の目利き力低下(2013年地域金融機関支店長調査等による)
 ③ ノルマ重視であり、保守的な気質の古い営業スタイル
 ④ 低金利・他行との競争激化→ゾンビ企業への追い貸しによる低収益

3. 現在見られる課題解決策とその問題点

- (1) 政府が取り組む地銀合併推進、コスト削減・経営合理化、働き方改革(問題点)地域への影響が十分に検討されず、地銀の延命措置にとどまる。
 (2) 地銀の新規事業展開(創業支援、新規事業開拓、経営改善、事業再生等)(問題点)「企業がほしい情報」と「地銀が提供する情報」のミスマッチ。
 ※企業が銀行に期待するサービス⇒「人材育成」「販売パートナー紹介」等(平成29年度金融庁調査)

4. グループとして考える課題解決策と、課題解決までの道筋

地銀は「地方創生のエンジン」になる。地銀自身も、地方創生なくして長期的な存続なしということを認識し、ヒト・モノ・カネ・情報面で新たな役割を担うべきである。

○以下の地方創生機能(地方創生のために地銀が担うべき役割)を担う

【ヒト】「適材適所」の推進役を担え

産業の新陳代謝を促すため、衰退企業から人手不足に悩む成長企業へ労働者の移動を促進する。事業継続性に難のある企業の経営者の声に耳を傾け、単なる延命処置的な資金提供をやめ、**廃業支援と被雇用者の再雇用先へのマッチングと人材育成プランの提供**を行い、「マッチングフィー」を得るとともに、成長企業への融資を行う。

【モノ】地方企業の「営業マン」になれ

地方企業の製品・サービスを発掘し、これまで蓄積してきた地域内外のネットワークを駆使して、**販路拡大に貢献**、フィーを得る。

【カネ】地方の将来あるべき姿を支援するリスクマネー供給の仕組みを整えよ
収益性に加え地域独自の特性・貢献度(地方の将来あるべき姿を描き、地域の質向上につながる技術・資源・事業等)を融資・投資の判断材料とし、リスクマネーを供給。

【情報】「現場主義」に回帰し、情報の変換器役を担え

地方に貢献する業務の優先度を高め業務効率化を図り、余力を捻出し、現場を回り、情報を収集。**産学官民各所に点で存在する情報をつなげ、新しいビジネスを起こす。**

5. 課題解決策の効果・副作用・残された課題

- 効果：地方創生の好循環(「地銀の顧客数・収益増加→地方創生機能強化→地域産業の付加価値向上/生産性向上→地域住民生活の質向上→地域としての魅力向上→他地域からの人口流入→経済力向上」→「地域の顧客数・収益増加…)